



【第45期陸曹特技課程「准看護師」入校式】

令和2年4月2日

4月2日（木）、自衛隊札幌病院准看護学院（学院長 高橋1佐）は、北部方面総監部から医務官 森西1佐、人事課長 瀬尾1佐、訓練課長 椋木1佐、方面最先任上級曹長 金子准尉、北部方面衛生隊から衛生隊長 蝶野1佐、最先任上級曹長 伊藤准尉が来賓として臨席する中、第45期准看護学生28名（男子12名、女子16名）の入校式を挙行了た。

緊張の面持ちの学生達が申告をした後、入校にあたり病院長（大鹿陸将）は、「人格の陶冶に努めよ」、「困難に挑戦せよ」の2点を挙げ、基礎となる教育をしっかりと受け、芯となる人間性を確かなものにして、選択に迷ったときに、常に困難な方の道を選ぶことのできる“挑戦心”を保ち続けるよう要望し、2年後に「困難に臆することなく挑戦し、やりきった」と胸を張れる卒業式を迎えてほしいと訓示した。また、准看護学院長は、「自ら学び 鍛えよ心と体」を要望し、逆境を克服できる真に役立つ衛生救護陸曹になるため、自衛官の基礎となる体をしっかりと鍛え、人を思いやることができる強く優しい心を育み、受動的な学びではなく、積極的に自ら求めて学び、2年間でできるだけ多くの看護知識や技術を自分のものにしてほしいと式辞を述べた。

北部方面総監部 医務官（森西1佐）は、「常に同期とともに」を要望し、准看護師としての専門的識能の習得と衛生科隊員としての資質のかん養という重要な目的に臨む姿勢として、常に仲間を思いやり、助け合いながら切磋琢磨し、2年後に衛生救護陸曹として頼もしく巣立っていくことを楽しみにしていると祝辞を述べられた。病院長訓示及び来賓から祝辞を受け激励された学生28名は、教育に対する決意と希望が漲っていた。

病院は、「真に役立つ衛生救護陸曹」を育成するため2年間の教育を開始する。



学生長による申告



病院長訓示



准看護学院長の式辞を聞く学生達



記念撮影



北部方面総監部 医務官祝辞



決意と希望が漲る学生達